

組合員の作品



写真 タンぽぽ  
みい西支部 ゆり子



ちぎり絵「もくれん」  
さつき支部 橋本 緑



写真 桜とユキヤナギ・あさひ事業所横  
山川 清

詩

種の旅

成田支部 迫田 智代

たんぽぽの綿毛

花芯をふんわりとつつむ

真昼の月が

はかなげに空にうかんでいるように

はかなげではあるが

たしかにそこに存在している

風に乗って

愛を運ぶ

ひとつ又ひとつ

ふわあくと旅立つ

見知らぬ地へ

見知らぬあなたと

知り合う為

詩集「私の旅」より

短歌

川縁を歩く老いらの行き交いていつしか今日も会釈しいし

門真中央支部 兵頭 克己

戦争は侵略を聖戦と言いつのり今はアメリカの属国となるや  
奥飛驒の一夜は明けて残雪の北アルプスに陽射しきらめく

門真東支部 佐々木芳春

夫はね男前だったと媪の言う苦勞した日々思いですがに

さつき支部 中嶋 順子

あがた探訪

命をかけた悪水抜き

(守口)

南寺方村は、下流で悪水の溜まる所でした。そこで、庄屋喜左衛門は、焼野(大阪市) 穂島(門真)の境目に悪水を抜く樋を造ることを願います。しかし、許可は下りません。このまま長雨の時期になればまた稲が育たなくなります。意を決し樋を造りました。それを知った下流の村々は訴えました。お上も専断を責め、寛永12年(1635) 処刑しました。

それから14年後大庭や大久保の悪水が流れてきて留まってしまう藤田村の庄屋弥治右衛門は悪水を古川に流そうと願い出、大工に樋の準備をさせました。ここでも下流の反対があり許可がありません。弥治右衛門は決断し、準備してあった資材で樋を造りました。お上は撤去を命じましたが、応じません。ついに家族もろとも処刑されてしまいました。

両村とも庄屋たちの命と引き換えに樋は残されました。この樋のおかげで実りが増え、農民は喜びました。お上の手前、ひそかに法要を営み「喜左衛門の樋」・「大蔵樋」と呼んで功績を伝えました。

ようやく明治15年「喜左衛門顕彰碑」明治29年に「義民弥治右衛門碑」が建てられ、その後も回忌に碑が建てられ命日には、法要が営まれています。